

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり・自由に・楽しく」をモットーに掲げ、その人らしくありのままに家庭的な生活が送れるよう支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期会議時や随時の話し合いでの場を通して理念を確認し、全職員が意識を持ち実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	自治会加入により地域の行事活動への参加時、家族面会時やホーム広報紙を通して理念の浸透に取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣にある公園への散歩や地域的美容院・商店の利用を通して、積極的に声をかけ合うなどして日常的なつきあいができるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域の行事には、出来る限り入居者と一緒に参加している。また、近隣の保育園児との交流会を年間行事に取り入れている。運営推進会議メンバーの民生委員代表者を通してボランティアによる協力支援が得られているなど、地域との活発的な交流が行われている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期会議内で地域の行事参加後の報告及び意見交換を行い、地域住民の暮らしについての気づきや何か役立つ事があるかを話し合っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善すべき点があれば全職員に意見を求め、改善への取り組みに努めている。定期会議時に具体的な話し合いを行い、評価の意義を理解するようにしている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時、地域の代表メンバーに評価報告書を提示し、取り組み状況等について報告及び説明を行っている。また、改善すべき点があれば意見を求め、適切な助言を活かしながらサービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の会議開催への参加や直接窓口で担当者との相談を行ったりと、密接な連携体制が図れるようにしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	説明会や講習会の参加により、学ぶ機会を多く持つようにして制度の理解をしている。実際に必要な人の相談はないが、生じる人がいた場合は分かり易く説明を行い、権利擁護に関する制度の活用ができるように支援する。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待は絶対的に行わないということを確実に認識している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人及び家族との契約時には、契約書に基づく規程を分かり易く説明を行っている。また、サービスの具体的な内容は重要事項説明書を提示して十分な説明を行い、同意が得られている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し、随時応じられるようにしている。また、介護相談員派遣事業を受託し、外部者へ意見を表せる機会を設けている。意見や要望・苦情等があれば、必ず運営に反映させる体制はある。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時や随時の電話による連絡時及び月刊ホーム広報紙を通して、定期的な報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し、随時応じられるようにしている。家族に「何でもご意見アンケート」を送付して、それらの意見内容等をまとめ運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ホーム会議時での話し合いや、全職員からの意見等提出を求めたりして運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事時には入居者や家族に柔軟な対応ができるよう、職員数を増やしたりして必要に応じた勤務調整を行っている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>結婚・出産を理由に退職した職員はいるが、開設当時からほとんど職員の入れ替えはない。働きやすい職場の環境作りに配慮して、入居者との馴染みの関係作りに努めている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修や講座等の案内を周知し、自己啓発ができる機会を働きかけている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議での地域代表者との交流や、県グループホーム協会の勉強会等に参加して相互の情報交換を行っている。また、他事業所への訪問活動を行い、交流を通じた向上の取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ホームの歓送迎会や法人の忘年会があり、職員相互の親睦を図っている。定期会議時や申し送り時、日常随時の場面においても職員間での話し合いの場を持ち、ストレスを軽減するための工夫や環境づくりを行っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人理事長は主治医でもあり、定期会議時や緊急時の対応に常時責任を担いながら、全職員の状況把握に努めている。また、定期会議に出席し、職員との意見交換や適切な助言を行うなどして、各職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、グループホームとは・・・を理解してもらうために、本人及び家族に見学を兼ねた訪問をお願いしている。その際には、本人の話しを十分に傾聴できる場の雰囲気作りに配慮をし、受け止められるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から電話による相談を受けた際、まずはグループホームとは・・・を理解してもらうために、本人と一緒に見学を兼ねた訪問をお願いしている。来訪時には家族の相談内容を十分に傾聴できる時間をもち、受け止められるよう対応をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、本人にとって望ましい生活とは・・・を一緒に考え、話し合いながら必要な助言を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共同生活に支障がなく、入居可能な方かどうかを初期判定する基準として、日帰り生活体験を取り入れている。その体験を通して、本人が納得した上でサービス利用の有無を判断するという利用者本意を取り入れている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員自身が入居者と一緒に過ごす時間を楽しみをもって接しており、共に支えあう関係が築けている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望や意見等を面会時やアンケートにより聞き入れをしたりして、共に支えあう関係を築けるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の生活歴を十分に把握した上で、家族とのより良い関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出及び外泊は自由としており、本人が楽しみを持って生活ができるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者一人ひとりの生活行動を観察しながら、入居者同士が関わり合えるよう支援している。些細なトラブルが発生した際は、職員が間に入り入居者同士の関係が支え合えるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族に対して、情報提供や適切な助言を行ったりして必要に応じた支援をしている。また、利用者や家族が気軽にいつでも訪問できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前収集した生活歴情報を基に、一人ひとりの思いや意向を把握した上で、出来る限り自分のペースで安心した生活ができるよう支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から得た生活歴情報と他関連事業所からの基本情報を照合させながら、一人ひとりのこれまでの暮らしの把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	交替制勤務により一人ひとりの一日の生活状況を観察して、全体像を把握できるようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初のアセスメント時に本人と家族の要望を聞き取り、それらの内容を定期ホーム会議でカンファレンスを行い、職員からの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し時期を分かり易く一覧表にして掲示し、それに基づき見直しを行っている。状態が急変した際は、即、申し送り時に職員間で情報を共有した上で家族と話し合いを行い、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>経営主体が医療法人で、理事長である医師から定期受診や健康診断が実施され、入居者の健康を管理している。心身の変化や異常発生時には、医師・看護師と24時間緊急時の連絡及び対応ができる医療連携体制を確保している。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関である認知症専門の医師により定期的な診察があり、必要に応じての治療や対応方法について指示及び助言を受けている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>24時間・365日、緊急時コールに対応できる常勤専従の正看護師を1名配置し、入居者の健康管理が行われている。身体状況の異変時には、直接の指示を受けて入居者への支援を協働している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>法人理事長が医師であり、医師間での早期退院に向けた話し合いが持たれており、協力医療機関との連絡体制は整っている。また、他の病院との情報交換や相談を行いながら、連携を図っている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>初回相談時・契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について当事業所の方針を十分に説明を行った上で、同意を得ている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化した場合や終末期介護についての支援方針内容は、重要事項説明書内に明確に記載しており、その方針に基づきチームでの支援に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	本人が他所へ移り住む際には、関係事業所等に本 人に関する情報を提供してダメージを防げるよう にしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、一人ひと りの話しを傾聴しながら受容と共感を持って接し ている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	入居者自身が思いや希望を表せるよう、一人ひと りに話しかけながら希望を確認して、自己決定が できるよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	一人ひとりが、その人らしく・ありのままに・自 由なペースで・安心して暮らせる・ことを当事業 所のモットーとしている。一人ひとりの日々の生 活状況の変化を十分に観察しながら、希望にそえ るよう支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	職員付き添いで地域にある美容院を利用したり、 職員の家族で美容師がいることから協力支援によ り出張訪問美容が利用できる。行きつけのある入 居者については、家族による対応が行われてい る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	嗜好調査により、ひとりひとりに合わせた食事を提供している。職員は入居者と一緒に食事をし、楽しみながらの食事ができるよう雰囲気づくりに配慮している。食事の準備については、一人ひとりの出来る範囲での能力を見い出しながら、役割を依頼している。		
55	疾病により医師からの指示にて、管理栄養士による食事制限がある入居者以外は、家族了解のもとで本人が望む物を日常的に楽しめるよう支援している。		
56	一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者のレベルに合わせて出来る限りトイレでの排泄を促している。自尊心を傷つけないようにさりげなく声かけをして、排泄の誘導を行っている。		
57	一人ひとりの希望に応じて身体上特に問題等がなければ、午後の時間帯に毎日入浴できるよう支援している。主治医から入浴制限の指示を受けている入居者については、足浴と清拭を実施している。		
58	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中の散歩・適度な運動やレクリエーションを取り入れ、入居者の状況に合わせた生活リズムをつくり、安眠できるよう支援している。休息は、入居者自身のペースで適宜休憩がとられている。状況に応じて、心身を休める場面を個別にとれるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、食前の準備や食後の後片付け・掃除・洗濯物たたみ等の役割を依頼する場面をつくって支援している。		


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人及び家族と金銭管理について話し合いの上、管理方法を決めている。買い物時の支払いは、入居者の能力に応じて傍で支払いを見守りしながら支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣にある公園へ散歩に出かけている。地域の行事に参加したり、年間行事を立てて積極的に外出できる支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望で行きたいところへの訪問は、家族の協力により外出支援が得られている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、随時電話や手紙のやり取りができるように、プライバシーに配慮しての支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問は最低月1回と規程している為、実現はされている。また、本人に関わる人達からの訪問時には、好きな場所での時間が自由に居心地よく過ごせるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を絶対的にしないことを十分に認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には未然に防げないリスク、身体の状態変化により起こりうるリスクについて、契約時・面会時・随時の連絡の際に説明を行い、話し合いの上同意が得られている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりを十分に観察しながら、体調変化の早期発見に努めている。異変が見られた際には迅速に職員間での話し合いの場を持ち、申し送り時でもそれらの情報を共有して対応をしている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋により一人ひとりの薬の目的や服用内容を把握しており、医師の指示通りに服用できるよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士による一人ひとりの健康・身体状態に合わせた飲食物のメニュー作成があり、それに基づき便秘の予防と対応を行っている。毎日軽体操や適度な運動を行い、排便誘導への働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者自身で口腔ケア（歯磨き・入れ歯の手入れ等）が行えるよう職員が傍で見守りし、口腔内の清潔が保てるよう日常的に支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が入居者の健康状態や嗜好を把握して、一人ひとりに合った栄養バランスを取り入れたメニューを作成している。栄養摂取状況・水分量を個別に記録をして把握できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対策マニュアル書にて取り決めがある。全入居者及び全職員はインフルエンザ予防接種を実施したり、手洗いとうがいを徹底して励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品衛生マニュアルがあり、徹底して食材の清潔や衛生管理を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に四季折々の草花を飾り、家族や近隣の住民が気軽に訪れやすく、安心して出入りができるように雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾品や親しみやすい物品を飾り、家庭的な雰囲気を感じられるよう工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にはソファ・ベンチ・椅子やテーブルが置いてあり、独りになれたり、気の合った入居者同士で自由に過ごせる居場所がある。エレベーターを使って1階と2階の入居者間の交流が図れたり、思い思いにこの場所で過ごせるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物品を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室の温度調節は、入居者に確認をしながら対応している。気になる臭いや空気のだよみがないよう、入居者の状況に応じて適宜換気を行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は段差がなく、バリアフリーである。玄関入口のスロープ・1階から2階へのエレベーター設置・トイレや浴室の手すりを設置しており、一人ひとりの身体機能を活かせるよう配慮した安全な環境になっている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの理解力に合わせた話しかけや、傍で見守りながら状況を把握して混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよう支援している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>十分に活動できるスペースではないが、景色を楽しんだり、草花等の手入れや草むしり等をしたりと、入居者自身での楽しみをもつての活用がされている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・年間行事を通して、家族や地域の方々との交流を深めている。